

## 新潟焼山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

<噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)が継続>  
5月1日以降、振幅の小さな火山性地震がやや増加しています。  
2015年夏頃から噴煙がやや高く上がる傾向が認められ、12月下旬からは噴煙量も多くなっています。  
GNSS<sup>1)</sup>による地殻変動観測では、2016年1月頃から新潟焼山を南北に挟む基線でわずかな伸びがみられています。  
今後の火山活動の推移に注意してください。  
想定火口内(山頂から半径1km以内)は、平成28年3月2日から、地元自治体等により立入規制が実施されています。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

### 活動概況

- ・地震や微動の発生状況(図1、図2、図3 - )  
5月1日以降、振幅の小さな火山性地震がやや増加しています。5月4日以降は低周波地震も発生しています。
- ・噴気など表面現象の状況(図3 - 、図4)  
新潟県土木部砂防課が焼山温泉(山頂の北北西約8km)に設置している監視カメラによる観測では、昨年(2015年)夏頃から、山頂部東側斜面の噴煙がやや高く上がる傾向が認められ、昨年(2015年)12月下旬からは噴煙量も多くなっています。5月1日以降は、火口縁上概ね200m以下で推移しています。
- ・地殻変動の状況(図3 - 、図5)  
GNSSによる地殻変動観測では、2016年1月頃から新潟焼山を南北に挟む基線でわずかな伸びがみられています。

1) GNSS(Global Navigation Satellite Systems)とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

この資料は、国土地理院、東京大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び新潟県のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』『電子地形図(タイル)』『数値地図 25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号:平26情使、第578号)。

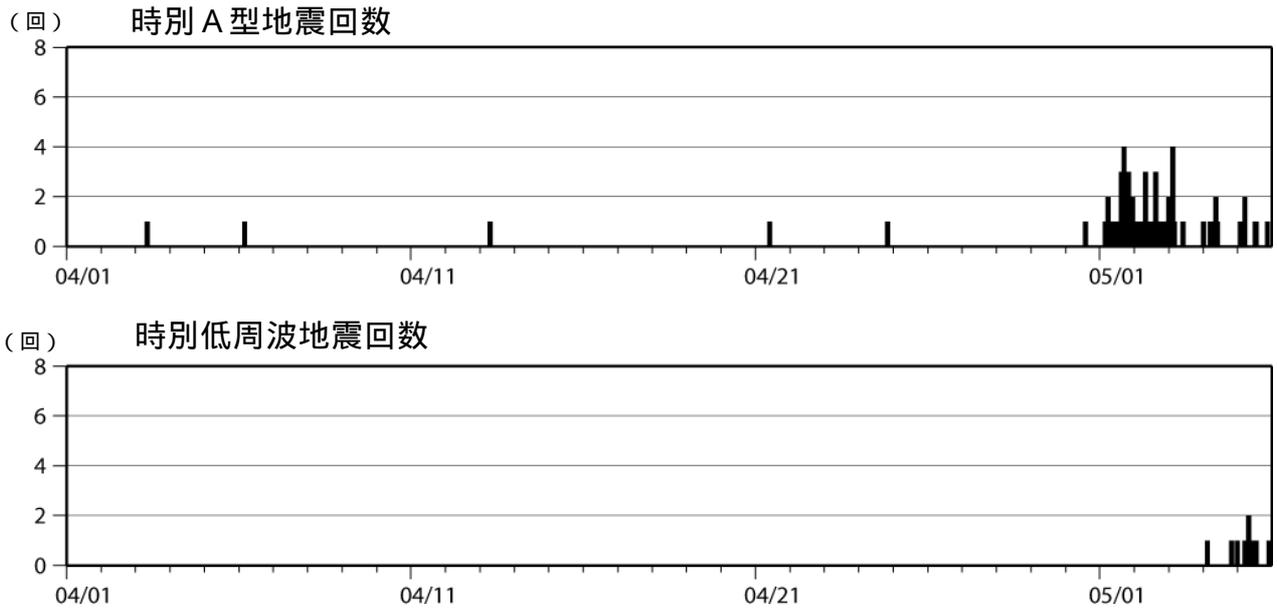


図1 新潟焼山 特別地震回数(2016年4月1日~2016年5月5日)

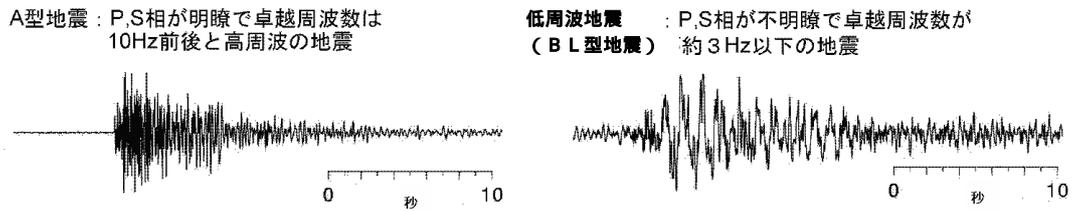


図2 火山性地震の特徴と波形例

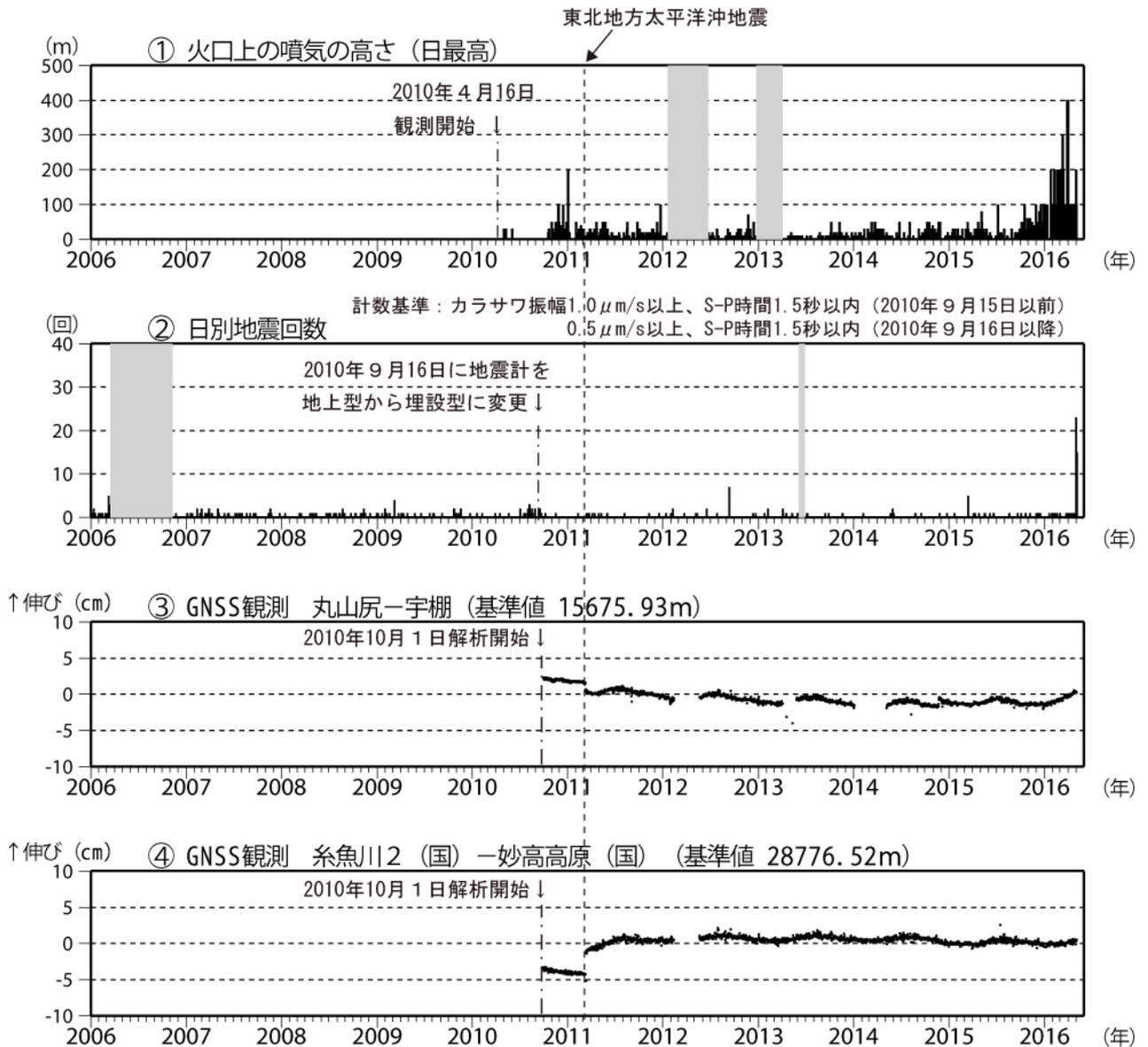
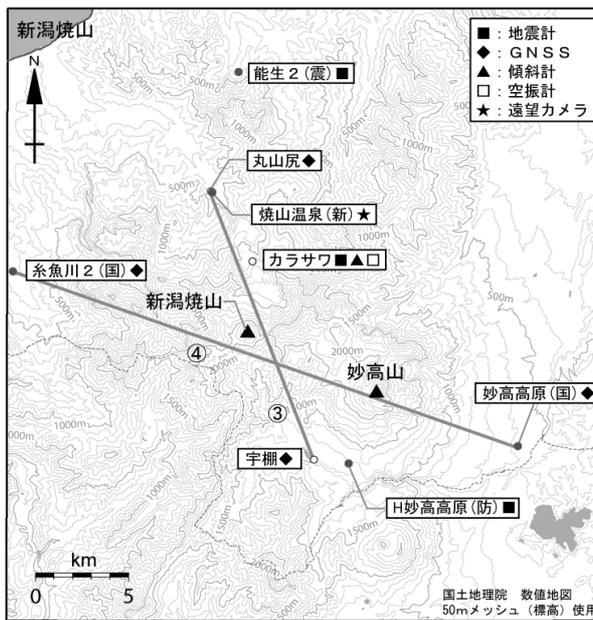


図3 新潟焼山 火山活動経過図(2006年1月1日~2016年5月5日)

- ・ 定時観測(09時・15時)による日別最高の火口上の噴気の高さ
- ・ 図の灰色部分は機器障害による欠測を示します。
- ・ 日別地震回数
- ・ 図の灰色部分は機器障害による欠測を示します。
- ・ 図1の と を合計した日別回数を示しています。
- ・ GNSS連続観測結果 (国): 国土地理院
- ・ の基線には、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、データに飛びがみられます。
- ・ は、図5のGNSS基線 に対応しています。
- ・ グラフの空白部分は欠測を示します。



図4 新潟焼山 山頂部の状況  
(5月4日 焼山温泉監視カメラによる)



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(震)：東京大学地震研究所、(新)：新潟県

図5 新潟焼山 観測点配置図  
(GNSS基線は図3のに対応しています。)

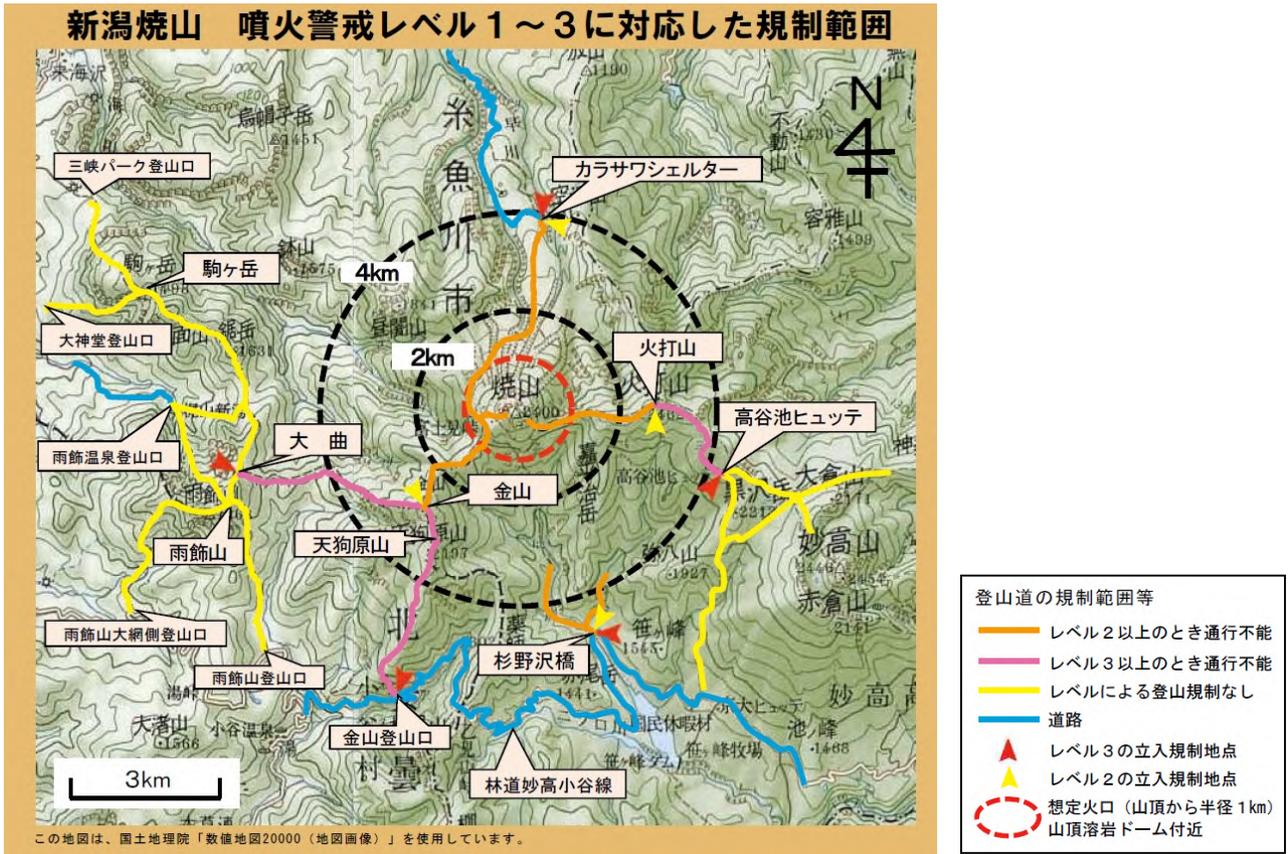


図6 新潟焼山 噴火警戒レベル1～3に対応した規制範囲